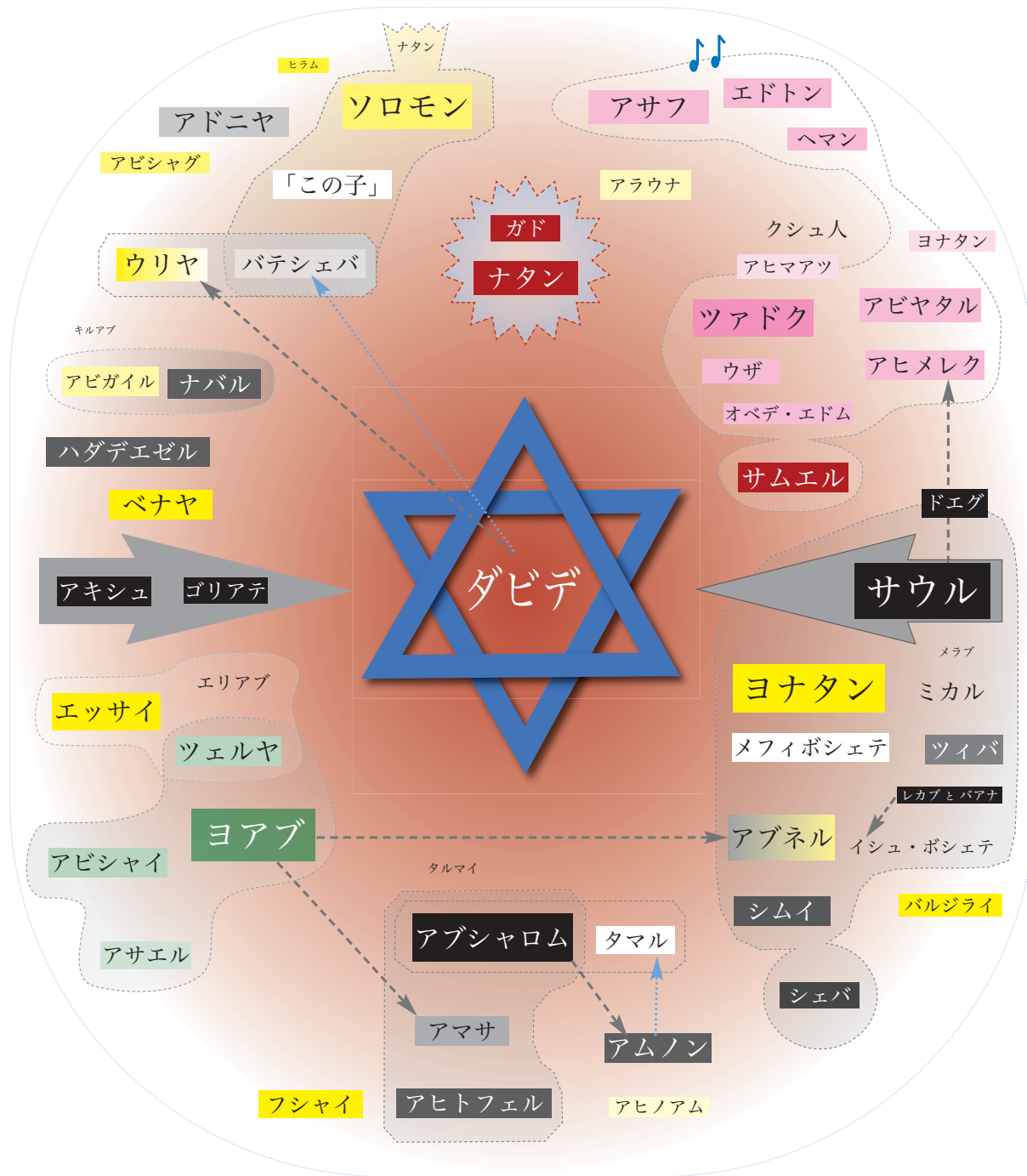


ダビデを



取り巻く人々

サウルについて

1. 使徒の働き13:21のパウロの言葉によると、サウルは40年間イスラエルの王でした。その大部分の期間、彼はダビデを殺そうとしていました。自己中心的な思いから、彼はダビデが自分の敵であると思っていたのです。

2. サウルを非難する事は簡単です。前回の学びでも、彼が1サム22章で祭司たちを殺した事を見ました。しかし24章では彼は、100パーセント悪いようには見えません。24:16~21で命を助けられたサウルが言った事は、真実だったでしょう。また、彼が死んだ後で、ダビデが彼について言った事からも、彼は悪いことばかりだったとは言えません（2サム1章）。彼がした多くの悪い事を見ながら彼の良い部分を見ることは、この学びで最も難しい事の一つです。

3. 真実を語る事は、必ずしもその人が良い人である証明だとは、サウルの事からは言えません。彼が言った事は、やむえずそう言われた事でしょうか？それとも驚きとショックで、彼自身とダビデについて正直な心を表わしたのでしょうか？21節でダビデに彼に対する約束を誓わせたのは、いつものように自己中心だったのでしょうか？

4. 24章で、ダビデは皆の前でサウルの命を助けた事により、道徳的にサウルより優位な立場に立ちました。このために、サウル王は道徳的に弱い立場となり、その後はダビデを追い続ける事ができなくなりました。ですから、ここでサウルがダビデに対して考え方を変えたというよりは、神様の特別な助けと導きによって、状況が変わったということです。26章で、彼は再びダビデを殺そうとしました。

サウルを形容する言葉

彼はどんな人であったか、1サム24章から考えてみましょう。下のリストを見て、彼について合っているかどうか○△×をつけてみて下さい。それを参考にして、次のページのワークシートに、サウルはどんな人だったか、書いてみましょう。

良い王

ガテの王よりは良かった

主に油注がれた者(24:6,10)

生涯王だった

ダビデを恐れていた(24:20-21)

ダビデを恐れるべきだった

悪いうわさに耳を貸した(24:9)

ダビデの家来から敬われた(24:4-7)

ダビデの敵(24:4,19)

ダビデを殺そうとした

ダビデを殺せた

ダビデに守られた(24:7)

ダビデにのろわれた(24:12-15)

主に裁かれるようになった

ダビデに似ていない

感情的(24:16)

道徳的に弱かった

不安定

自己中心

二心があった

ショックを受けた、驚いた

感謝した(24:17-19)

悔い改めた(24:22)

正しくなかった(24:17)

悪者(24:13)

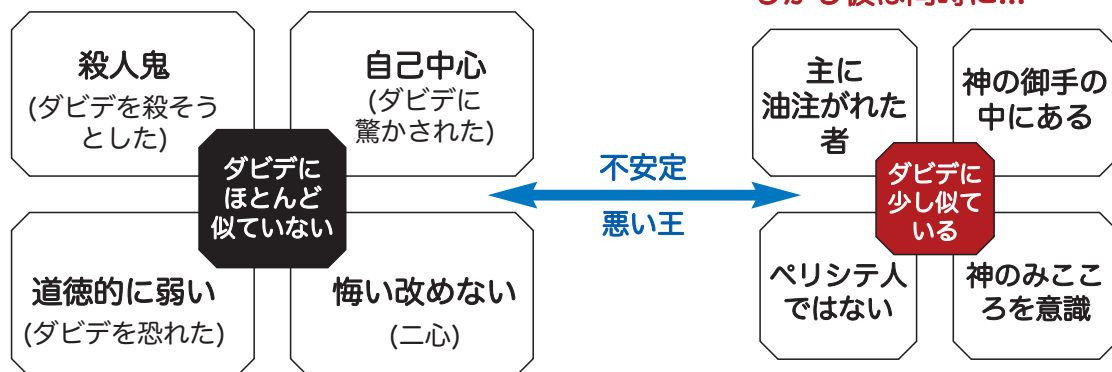
救われなかった

サウル

サウル王は、二心があり、いつも不安定な状態の人でした (ヤコブ 1:8)。彼は主から油注ぎを受けた者で、ある意味で神のみこころを意識していた点においてはダビデと似ていました。しかし、ダビデと全く違っていた事は、彼は神様に対して逆らい、真に悔い改めをしなかった事です。下の図はこの2極性をまとめたものですが、イスラエルの最初の王がどのような人物だったかを簡単にまとめるのは難しいでしょう。

サウルは11章で、良いスタートを切りました。しかしすぐに、13章と15章で主に従わなかったため、退けられました。18章からは、ダビデを殺そうとする姿が見られます。第1サムエル記のほとんどは、サウルが自己中心で殺人鬼のような姿を描いています。24章と26章に見られるように、彼を殺そうとしなかったダビデとは違います。それで、下の「ダビデとは違う」という極の方が大きくなっています。

サウル王は...



よく、サウルは救われていたかどうか、という事を議論する人たちがいます。その議論をする人たちは、上の2極のどちらかを選んでその証拠をあげ、もう一方の極を見ようとはしません。それは、良い判断とは言えないでしょう。サウルは救われていなかったかもしれません。しかし私たちにそれは、はっきりとはわかりません。少なくとも、その事は1サムエル記の焦点ではないからです。中心の事は、多くの事柄から見て、サウルは不安定な悪い王であったという事です。ダビデももちろん完全ではありませんでしたが、彼よりも安定していたし、道徳的にもずっと良いリーダーでした。

ダビデは、自分の罪を指摘された時にはいつも、悔い改めて道を正しました(例えば2サム12:13)。しかしサウルは1サム13,15,24,26章に見られるように、罪を指摘されてもそれを繰り返していました。24:16-22では、彼はダビデを殺そうとしていた事を悔い改めたように見えますが、すぐに26章で同じ事をします。なぜでしょうか？簡単に言えば、彼の悔い改めは真実ではなかった、という事でしょう。またもう一つの答えは、サウルは自己中心的に自分を守る事と、皆の上に立つ正しい王となる事、という2つの相対する事をしようとしていたからです。